

基本目標1：こどもも大人も、豊かに学び、自分らしく健やかに暮らせるまち

政策分野	まちづくり市民アンケート／まちづくり中学生・高校生アンケート　*原文ママ		市民ワークショップ	第1回総合計画審議会
子育て	一般	・若い世代が増えるように、結婚、不妊治療、新築の保護を手厚くする。 ・恋活・婚活イベントの継続、育児に役立つ生活環境を整えるタウンミーティングを増やす、などの取組をして欲しいです。 ・合計特殊出生率をあげること。生まれた子供がそのまま定住できる施設の推進。 ・テレビで見たことで申し訳ないのですが、どこかの市（県外）では定年退職された先生方などが塾の講師をしていて、無料で子どもたちの勉強などをみてくれていました。とてもいいなあと思いました。 ・今、子育てをしているからこそ思うことですが、市全体で子どもたちのことにもっと力を入れてほしいです。出産祝い金や、子どもたちの習い事への補助金等、もっと充実していったほしいと思います。 ・子どもの成長のために、習い事の補助金があるととても助かります。塾等の補助金があるだけで、若い子育て世代には魅力的だと考えます。 ・小中学校の給食無償化。 ・他市町村で行なっている、奨学金返済補助。 ・都心の大学、専門学校に通いながら伊豆の国市に住み続ける学生に対して、支援が豊かな街にしてほしい。 ・共働き、子育て世代です。学童について、近隣の三島市では、夏休みなど長期休みの際は、お弁当を注文できる体制があるようです。伊豆の国市でも導入していただきたいです。又、学童から帰るときに伊豆の国市は、お迎えが必須ですが、学童から一人で帰宅を可にしていきたいです。子ども自身が一人で習い事に通えるなどもう少し自由度が高いとフルタイムで働く身としては助かります。 ・近くに親達がいらない若いお母さん達のかわりに病児で幼稚園、学校などから連絡があった時に一時的にでも預かれる所があったら、安心して働けるのではないかと思います。 ・学童に入っていないこどもを長期休みや平日にこども（小学生）を預けられる場所がなく、仕事の継続が難しいので、受け皿を作ってもらえたらと思う。こどもの医療費助成やフッ素洗口、英検の助成など、子供たちに対して積極的に支援をして頂けている点はとても感謝しているので、今後さらに子育てがしやすくなることを期待しています。 ・保育所の待機児童をなくしてほしい（預けたくても入所できない子がたくさんいる）。働きたいお母さんもたくさんいます。子育てしやすいまち。 ・働きながらも子育てしやすいように託児所など子供を預けやすい場所を増やす、雇用を増やす。 ・子育て教育環境の充実（保育園から）。 ・安全な交通、自然と近い環境で子供がのびのびと暮らせるまちがいい。そのためにもいま景色を大切にすること、結婚して子供が欲しいと考えても学費だけでなく新しい制服や塾が前提の学校。安心して子供を産んで育てられるようにして欲しい。 ・子育て支援の充実を希望します。	・通園助成制度を、近くの園に入れず遠距離通園になった人も対象にして欲しい（希望する園に入れない、公立の保育園に入り難いため） ・保育園・サービス（受け入れ数や預かり）の充実。 → ファミサポのまかせて会員の増加。 → 一時預かりの情報を分かりやすく。 → 保育士を増やす、保育士が働きやすくる。 ・医療保育園などの施設が欲しい。 ・短時間保育の利用者が希望園に入れないため保育園をこども園化。 ・一時保育の受け入れが少ない（日数も）ため増やしてほしい。 ・統合後に幼稚園の園舎を人が集まれるようにしてほしい。 ・共和幼稚園、田京幼稚園を人が集える場所に（習い事や宿題ができる場所）。 ・地元を離れても戻ってきたいと思える場所。	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 ・子どもを預けられる場所が以前より増えてありがたい。 ・一方で、今は子育てと仕事がセットになっていて、子どもを預ける場所や居場所の整備はもちろん、子育てをしながら望む形の働き方ができる場所も必要だと思う。 → リモートワークが可能な職業のあっせんやそれに限ったお仕事フェアなど。 《未来の伊豆の国市について》 ・優先順位を念頭に置き、直面している身近な日常生活の困りごと（ごみ処理・新たな交通手段等）や子育て支援についても、あるべき姿を明確にし、未来につなげていく必要がある。
	中・高校生	・子どもが産みやすい制度を作る。 ・乳幼児を持つ世帯に対して、子供の医療費、こども園などへの入園費、などの削減。母子、父子世帯などへの進学費用の援助。民生委員などの活用。 ・教育費の支援。 ・公立高校の学費を0にする。 ・子育て支援として、給食費を無償化する。高校進学の補助金を出す。農業から、生活（子育て）に尽くす。 ・保育所に手頃な値段で預けられるようにする。		

基本目標1：こどもも大人も、豊かに学び、自分らしく健やかに暮らせるまち

政策分野	まちづくり市民アンケート／まちづくり中学生・高校生アンケート　*原文ママ		市民ワークショップ	第1回総合計画審議会
こども・若者	一般	・アイキッズのような体験プログラムを増やして欲しい。 ・子どもたちがいろんな経験を積めるまち。人との交流がたくさんもてるチャンスがあるまち。 ・子どもたちがのびのびと育つようなまちになってほしい。市内の自然を活かしたり、様々な大人や多くの人々と関わり合いながら、自主性を持った子供が育つまちになるといいなと思う。 ・学校での取り組み（ありきたりの職業体験とかではなくて、自分の知らない世界を広げてくれる人や体験ができる）。 ・子ども、若年世帯（20、30代）が、自由に生きづらさを感じない地域社会、男女平等、ジェンダー平等など徹底的に進める。 ・伊豆の国市で育った子供達が、大人になって市外（県外）へ出なくてもいいまち。	・統合後に幼稚園の園舎を人が集まれるようにしてほしい。 ・共和幼稚園、田京幼稚園を人が集える場所に（習い事や宿題ができる場所） ・勉強を断られない施設を増やす。 ・学生が夕方過ごせる場所。 ・子どもたちが自主的に行動できる。 ・発達段階に応じた学習支援の充実。	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 ・若者にとっては、活力のあるまち、安心して子育てができるまちということが、一番重要なファクターではないかと思っている。 ・中学生や高校生においても、自分たちの声が市に届き、自分たちの手で自分たちのまちをつくるということを体感できるような取組があれば良いと思う。 《未来の伊豆の国市について》 ・子どもの特徴・能力が発揮できるまち。 ・子どもが、将来帰りたくなり、自分の育ったまちで子育てをしたくなるまち。具体的には、乳幼児期から児童期に、家族や友だちと、近所の公園など近所の大人が常に見守る安心感のある環境で、子ども同士が安全にのびのびと遊ぶことができるまち。 ・こども家庭庁「こどもまんなか社会」を実現し、子どもにとっていちばんの利益を考えるまち。
	中・高校生	・若者を巻き込んでイベントや取組を行う。 ・児童らが音楽や、工作、考え方を広げられるようなイベントをつくる。例えば、マジックショーを見せてそのあと児童らも自らできるような簡単なマジックを教える。それらを通して、大人や児童同士の交流の場を広げて、地域の結束力を高くしたらよいと考える。 ・子供の夢を叶えるために補助や機会を設けること。		
教育	一般	・先進的な教育を子どもたちが無料で受けられる体制づくり。 ・小中学生の外国人のALTを招いて、実践的な英語学習を行なってください。（幼稚園児には特に単語会話を行なってください。）数学を小中学生に指導してください。それが工業学問となり、地域を発展させると思います。 ・都会にはない田舎の良さを残しつつ、都会との経済格差や教育格差、情報格差などを最小限にしたまち。 ・学校での取り組み（ありきたりの職業体験とかではなくて、自分の知らない世界を広げてくれる人や体験ができる） ・子どもたちが安心して学べる環境を整え、子どもたちの声が聞こえる地域にしたい。 ・子育て世代が住みにくい町だと思えます。子供が減ったから幼稚園を減らすのではなく、子供が増えるようにして幼稚園を存続させてほしいです。遠方の園に通うには徒歩では厳しく、子供は車で通園しなくてはならず、基礎体力も低下し家計も圧迫（ガソリン代）します。 ・資格のとれる大学や専門学校ができたら良い。高校を卒業してからの進学先が、静岡県東部地区には少ないので、希望する資格をとるには、他県への進学が必要。学費以外に一人暮らしのために仕送りが必要となると、ハードルが高くなる。様々な資格をとれる学校が、無理なく自宅から通学できる範囲にできたら、進学率が上がり、地域での就職希望者が増え、不足している有資格者の人材が増えていくと思われる（特に、コメディカルスタッフ）。 ・少子化が叫ばれる昨今、教育の質や環境整備以前に教育する側の労働環境を整えなければならないと思う。まずは教える側に活気がなければそれを子供たちに伝えることが出来ないためそのようにすると良いと思う。そしてその上で、子供を育てやすいまちづくりをするべきであると考え。もちろんそのような施策をしているであろうが、まずは生産年齢人口の活性化がなければ、次の世代の力も伸びにくいため働きやすい環境を作るべきであると考え。	・少人数の園だからこそできるカリキュラムをつくる。 ・英語教育がさかんなまち。 ・留学や修学旅行で海外に行ける。 ・マリナ市へ留学補助。 ・小学校、中学校に出前授業。 ・地域と結んだ学び場づくり。 ・部活動の受け入れ、または部活動に代わる習い事。 ・高校や大学の選択肢が多い。 ・進学先の選択肢が少ない。	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 ・運動部系の部活動は地域でというところがあるが、文化系の部活動については、地域の産業と連携するというのが考えられるのではないか。 ・少子化により部活動がなかなか作れなくなっている中で、部活動の代わりに、職業選択を考える機会として、例えば、地域に残っているお菓子屋さんやそういう職人のところに行って学ぶなどの活動を行ってはどうか。 ・これ以上子どもが多く生まれるということは考えづらい状況の中、やはり今後、学校を統合していくこともあると思う。もし、そういう計画があるのならば、地域に根ざした学校を作っていくという計画がある以上、早め早めに公表してもらいたい。学校の統合にあたっては地域の理解と協力が必要になってくる。 《未来の伊豆の国市について》 ・市民の誰もが安心して暮らしていける伊豆の国市。 → そのためには、未来を託す若者への人材育成が重要。 ・将来の担い手不足に対応するため、地域の担い手づくりとして、中学生を対象とした就業体験や、高校生に対する市内企業の紹介を行い、子どもたちが職業を知る機会を創出する。 ・質の高い教育・保育が保障される、子育てをしたくなるまち。そのためには各機関の横断的な連携の強化と情報発信の強化が重要。
	中・高校生	・学校の授業でもボランティアをやってみたい。身近になると思う。 ・学校でお金の勉強をする。学校として地域のボランティア活動。 ・学生の社会実習を増やす。 ・市内にいるいろんな職業の人に協力してもらって、職業体験のようなイベントを開催する（消防士、ヘアメイクアーティスト、看護師など）。 ・教育委員会と先生、教育委員会と生徒の間のコミュニケーションを活発化する。 ・公立高校の学費を0にする。		

基本目標1：こどもも大人も、豊かに学び、自分らしく健やかに暮らせるまち

政策分野	まちづくり市民アンケート／まちづくり中学生・高校生アンケート　*原文ママ		市民ワークショップ	第1回総合計画審議会
生涯学習・ 歴史文化芸術・ スポーツ	一般	・芸術系の分野に挑戦しやすい、音楽あふれるまちにしたいです。 ・イベントやクラブ活動などもっと情報を広げて見やすく。目につくところにあげてほしい。 ・歴史的遺産を大切に、かつ現代の良さも取り入れて、文化的に高いまち。 ・縄文、弥生時代の遺跡を部分復元...遺跡のまち。 ・私の住んでいる寺家はお寺が多いので、過去の文化と歴史的な霊的にも大切な場が未来まで学び守られる町作り。 ・市民がもっと活用できる広いスポーツ公園や、プロから学ぶ機会を増やし、市民それぞれがスポーツに対する意識向上を図る。 ・スポーツを通じて心身共に過ごせるまちづくり。 ・スポーツ施設が充実し、プロレベルのイベントが開催出来る様にしたい。	・地域と結んだ学び場づくり。 ・若者に地域の歴史を認知し地域愛を深める。 ・歴史館の充実（憩いの場、学習の場、展示の場、情報の場を兼ねている）。 ・歴史を守りつつ自然と共に輝くまち。 ・歴史を感じることができるまち。 ・市内クラブチームの情報を一元的に閲覧できる。 ・サップ、カヌー遊びをもっと手軽にできるように。 ・自転車道を整備しサイクル人口を増やす。	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 ・今後、高齢者が増加していく中、高齢者を対象とした、気軽に身体を動かすことができるような事業や取組を実施することで、健康増進や生きがいづくりにつなげていく必要がある。 ・スポーツや運動の必要性について認識を高めるために、広報やHPなどで周知するとともに、生涯スポーツのきっかけづくりを整え、スポーツや運動をする人を増やしていく必要がある。 ・スポーツや運動の普及には、福祉健康など幅広い分野で展開していく必要がある。また、観光とスポーツを一体とした地域の活性化等も考えていく必要があると思っている。 《未来の伊豆の国市について》 ・文化についての情報発信の強化と新しい文化都市づくり。そのためにも、歴史・文化の情報発信を強化し、市民及び観光客誘致の強化を図ること、食育文化の構築を図り、農業及び観光業に貢献できる仕組みをつくること、小学生くらいまでを対象としてスポーツ・文化（将棋・碁・音楽など）の特殊文化都市づくりの構築を図り、まち紹介に活用することはどうか。 ・地域の活性化と市民の健康増進を目的として、最新のスポーツ施設や公園の整備に力を入れてはどうか。全天候型のスポーツドームや多目的運動場の建設、新たなトレーニングジムの設置なども含む。 ・豊かな自然環境を活かして、スポーツイベントを通じた観光誘致を積極的に行ってはどうか。例えば、クロスカントリー大会、サイクリングイベント、トレイルランニングの大会などを定期的に開催するようにするなど。 ・AIによるパフォーマンス分析、ウェアラブルデバイスによる健康管理やVRを活用したトレーニングなどが普及することを見据え、市民が個々のニーズに合ったスポーツ活動を行える環境を整える必要があると思う。
	中・高校生	・韮山反射炉を今よりもっと有効活用した施設やイベントをする。 ・若い人が文化などを引き継いで、文化などの衰えをなくす。 ・要望として歴史を学ぶイベントをまた開催してほしいです。 ・スポーツクラブとの交流会（健康）。職業の講習会。 ・スポーツできる施設など、交流の機会を作れるような場所を建てる。 ・自然を活かして様々なスポーツができるまち。		
保健・医療	一般	・コロナ以前に行われていた市主催（福祉課）の体操教室では、血圧測定、保健師さんのお話等、健康チェックに役立っていました。復活出来れば良いなと思います。 ・定期的な健康診断を受けられるようにする。保育所に手頃な値段で預けられるようにする。 ・健康に暮らせる医療環境。 ・産婦人科や小児科専門医の招致。 ・子供の医療体制において、小児医療を充実して欲しい。夜間の小児救急ですが順天堂が対応してもらえなくて近場に受信できる病院がなくて困っています。 ・市内だけでも十分な医療が受けられるまち。 ・医療施設・医療従事者が充実しているまち。 ・デジタル診療で気軽な相談体系の確立、朝の挨拶運動強化など。 ・伊豆保健医療センターの充実。 ・禁煙、卒煙支援、受動喫煙の知識。 ・ワクチンの補助金（带状疱疹）が、他の自治体でも増えてきているのでやってほしい。	・大きな病院があって安心。 ・順天堂以外の病院があるまち。 ・人口10万人あたりの病床数、医療数が県内トップクラス。 ・軽度・中程度の救急体制の不足。	《未来の伊豆の国市について》 ・医療機関との関係強化と、老人の医療機関見直し（機関数・人員数）の再構築。 ・心も身体も健康でいられるようなまちを維持し続けられたら良いのではないか。 ・医療と福祉のセーフティネットがしっかりと機能して、安心できるまちにする。 ・超高齢社会へ向けて、順天堂病院など医療関連の支援、陽伊豆る国構想の支援を行うことで、健康経営や健康寿命の延伸につなげ、シニア労働力を確保することができる。 ・医療サービスはどこの市町にも負けないほど整っていると思うので、それらを活かしたまちづくりが必要だと思う。
	中・高校生	・年齢に関係なく楽しく健康的な生活を送れるまち。 ・定期的な健康診断を受けられるようにする。 ・子育てや健康に対してあまりお金がかからず、仕事と無理なく両立できるようなまち。 ・医療施設・医療従事者が充実しているまち。 ・医療のお金を負担してくれる。		

基本目標2：地域で互いに支え合い、誰もが安全で安心して住み続けられるまち

政策分野	まちづくり市民アンケート／まちづくり中学生・高校生アンケート　*原文ママ		市民ワークショップ	第1回総合計画審議会
地域福祉	一般	・地域で見守る（子や高齢者等）。 ・地域福祉を柔軟性のあるものに。福祉に対して声を上げやすく。 ・地域資源としての訪問マッサージの活用。 ・福祉に携わる方への援助・家族の支援。 ・子育ての手伝いが出来たり、老人が家にこもらぬように交通（乗り合いタクシーなど）、老人の交流の活性化、子供、老人のふれ合いなど融合する。	・地元向けの温泉・足湯の充実。 ・世代間交流を増やす（幼・保育園と老人ホーム） ・世代間交流を増やす（異学年交流）	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 ・ひと（特に子ども・高齢者）に優しく、安心して暮らせるまち。 ・今後、近親者のいない単身高齢者が急増されると言われる中、現在家族が担っていた機能を、社会で対応していく仕組みが必要となってくる。国としての取組もあるかもしれないが、具体的には地域でもそういう取組が重要になってくると思う。 ・通院同行などの日常生活支援ができない、入院や介護施設入所の際の身元保証ができない、あるいは死亡した後の納骨や家財処分などの死後対応を誰がするのかなど、こういう社会が待っていると言われている。 ・また、人と関わらない、関われない方は認知症がかなり進んでいく傾向にある。毎日人と会話できる環境、人と人との繋がりづくりが健康に大きく影響していると言われている。 ・孤立しない対策、望まない孤独や孤立の対策として、友人や近隣の人と親しい関係、助け合える関係性を構築できるよう、交流の場や居場所を作ることが非常に重要だと思う。 《未来の伊豆の国市について》 ・人とのつながりや結びつきを大切にするまち。 ・望まない孤立・孤独を抱える人の拠り所となる居場所（気軽に集える場）があるまち。
	中・高校生	・自分が積極的にまちや地域の行事に参加したりして、高齢者と交流する。		
包括的支援	一般	・高齢者の方が増えているので、買い物・病院・理容など、車の無い生活でも安心して暮らせるような町にできたら良いと思う。 ・足が不自由で一人では行動できない。タクシーで往復しても6,000円かかる。一週間ごとに通院している。タクシー券をもう少し出してもらいたい。 ・独居高齢者の増加に伴う支援や対策の検討してほしい。 ・市運営の低価格施設の建設（老人ホーム等）。 ・公共施設、医療機関（病院）等に入り口や、院内等にバリアフリー、斜路を設置していただきたい。市で設置者には、援助してほしい。どのシステムも補助金等の援助は上限を定めることとする。 ・全ての障害者、特に軽度の人に対しての支援が薄いと感じます。障害を持っているのに支援までにはいかない、など。あと、障害をもち働いているが十分な給与とは言えない場合もあるのかかわらず、医療費は、健常者と変わらず3割負担です。これは、病院に行きたくても金銭面で躊躇してしまう現状があると思うので、負担を減らして欲しいと思います。障害者支援は力を入れて欲しい所かなと思います。	・車イスが安全に使えるまち。 ・認知症になっても安心して暮らせるまち。 ・在宅医療・介護の推進体制がある。	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 ・市民の誰もが安心して暮らしていける伊豆の国市。 → そのためには、特別でない穏やかな日常を過ごせる生活環境の整備が重要。 ・24時間体制で対応してくれる明確な相談窓口がほしいと感じる。
	中・高校生	・高齢者のためにバリアフリーを一番多くする。 ・学生や老人と関わるイベントなどを催す。 ・障害者や外国人への支援。		

基本目標2：地域で互いに支え合い、誰もが安全で安心して住み続けられるまち

政策分野	まちづくり市民アンケート／まちづくり中学生・高校生アンケート　*原文ママ		市民ワークショップ	第1回総合計画審議会
防災	一般	- 能登半島の地震では若者がいたので助かったと聞きました。若者（中高生も）に防災意識を身につけさせる教育をしてほしい。 - 被災後の早期復旧を目指す防災計画（特にインフラの早期復旧）。行政の民間と合同訓練や、協定の強化など。 - 耐震化率の向上（最低限の対策は全て市の予算を使って！）。狩野川の水害対策（放水路の拡充、堤防の強化、田京／長岡間は流木の衝突が多いのでは。 - 放水路をもう1ヶ所つくり、水害対策の充実。放水路より津波が伊豆の国市（長岡、韮山）は危険。何か対策をお願いしたい。年に一回程度、アンケート調査をお願いしたい。	- 自助・公助の徹底。 - 避難所に安心していけない（立地や建物の古さ）。 - さまざまな媒体による災害時の情報発信。 - 内水の被害が多い。	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 - 災害DXの一例として、三島市では、デジタルサイネージを活用し、観光と災害を組み合わせるということを検討している。平次には、インバウンド向けの案内やナイトタイムエコノミーに寄与する取組を行い、有事の際は災害時に活用するといったことも一計ではないかと思う。 - DXについて、防災の観点でいえば、災害が発生したときに特定個人向けの情報発信もできるようになるのかもしれない。一方で、災害時のみ使用するシステムにすると、いざというとき使い方が分からないという事態にもなりかねないので、平時での活用方法も考えながら取り組んだ方が良い。 - 防災においては個人一人ひとりの防災力が重要。 - 防災訓練においても、ただやっているという状況では絵に描いた餅になってしまうと思うので、一人ひとりが、何が大事で、本当に起こったときに何ができるのかを考えていく必要がある。 - 地域で自治活動をしている方は高齢の方が多いので、小学生や中高生などの若い力も借りることが一番ではないかと感じている。 《未来の伊豆の国市について》 - 近年、防災の取組が増加しているが、いきなり現状を全て転換することは難しいので、観光と医療・福祉、観光と防災のように、観光をフックに展開し、最終的に安心・安全を連想させるまちづくりが肝要と考える。 - 災害に強いまちづくりが重要であり、道路整備が必要と考える。 - 災害時に道路が早く復旧できれば、車両が通ることができ、水道や電気の復旧が早く進み、被災地の復旧も早まると思う。 - 市民の誰もが安心して暮らしていける伊豆の国市。
	中・高校生	- 学校外での防災訓練の実施。市外から来ている学生も多くいるから通学中に災害にあったときの対処法などを知りたい。 - 避難訓練をこれからも行う。 - 防災訓練の参加率増加。 - 地区や地域で避難訓練を頻繁に行い、地区の防災倉庫の確認を頻繁に行い、誰もがいつ災害が起きても大丈夫と思えるようにする。 - 私の住む地域は、一時的な大雨ですぐ道路が水浸しになってしまう。もう何十年もこういう状態で、10年前位に下水を直したみたいだけれど、元の下水の方を直していないので、水浸しになります。早くなんとかしてほしい。子供達には「こんなに水が浸く家には戻ってこないよ」と言われちゃいました。 - 地盤の強化、ブロック塀をなくす、建物の強化、避難所等の充実。 - 困っていることではないですが、大仁北小学校周辺が大雨のときよく溢れていて、大雨のとき避難場所には向いていないのではないかと思います。 - 災害があっても安全に避難ができるようなまち。		
市民安全	一般	- 少年愛護パトロールなど。 - 防犯カメラをたくさん取りつける。 - 駅付近や栄えている地域から離れている所の街灯がないところが多く、学生の防犯も危なく車での送迎が必要とされる為、仕事の制限も出てしまい、子育て地域にも難を感じる。 - いつも不思議に思うのですが、火事があった時に、なぜ場所をアナウンスしないのでしょうか？そこを通らなくてはならない人は仕事に遅れてしまったり。多分迷惑を被っていると思います。分かれば消防車も来るので避けて消化を助ける事ができます。何処か分からないと、方向に知人がいる場合も無駄な心配をしてしまいます。これは公共心がない、と言う事だと言えます。	- 特に安全に配慮した通学網（歩道、自転車道）。 - 公園に多目的トイレが少ない。 - 街灯が少ない。 → 警察や学校が情報交換する。 - センサーライトのあるトイレなど設備の拡充。	《未来の伊豆の国市について》 市民の誰もが安心して暮らしていける伊豆の国市。
	中・高校生	- ボランティアなどで登下校のとき子供の安全を見守る活動を大人がする。 - 街灯が少ないため夜暗い。 - 小学生のリュックには防犯ブザーをつける。 - 犯罪などがなくなるようにポスターを作ったり呼びかけをする。 - 交通安全週間をつくり、地域の人たちで子どもやお年寄りの交通を見守る。 - 交通安全教室を開く。		

基本目標3：経済が循環し、にぎわいや交流が増え、市民一人ひとりが活躍するまち

政策分野	まちづくり市民アンケート／まちづくり中学生・高校生アンケート　*原文ママ		市民ワークショップ	第1回総合計画審議会
商工・雇用	一般	・商工会などのイベントを時代劇場で増やしてほしい。 ・税制を優遇して大企業や病院、教育機関を誘致する。 ・若い人たちが働くことができる企業の誘致。特に女性の雇用が望める企業の誘致。 ・子供たちが大きくなってまた戻って就職できる会社などを誘致できたらいいと思う。 ・65歳以上の人でも仕事やボランティアに参加しやすい環境作り。 ・伊豆の国市の基幹産業は今や医療と高齢者福祉ではないかと感じています。介護が必要な高齢者のお世話は元気な高齢者に任せるなどして、若い人たちには違う産業で社会参加をして欲しいです。特に大学を卒業した女子の働く場がありません。教員、市役所、医療以外の活躍の場を創出できないと、優秀な女子は流出するばかりです。今後の高齢化は進む一方でないでしょうか。 ・Uターン就職の政策。	・ICT産業が進み移住者が増える。 ・企業誘致による税収の改善。 ・30年前と比べ、工場で働く人が減った。 → 働く場所を増やす。 ・雇用を増やす。 → 事業継承の支援。 → 居抜き店舗の活用。 → 企業誘致。 ・雇用が多いまち。 ・若者の働く所があるまち。	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 ・一方で、今は子育てと仕事がセットになっていて、子どもを預ける場所や居場所の整備はもちろん、子育てをしながら望む形の働き方ができる場所も必要だと思う。 → リモートワークが可能な職業のあっせんやそれに限ったお仕事フェアなど。 ・男女関係なく、望む働き方を手にいれることが、子育ても人生も楽しい伊豆の国市につながると思う。 ・創業支援においては、IT関係などのサービス業での企業での企業が増えている。 ・少子高齢化という避けて通れない現状の中で、いかに創業・就業支援を行い、事業者を増やすかということが重要である。 ・地域内の仕事を地域内で回すことで経済を循環させてほしい。 《未来の伊豆の国市について》 ・産業間の打合せ会の強化を図り、新事業の創出によるまちおこし。例えば、農業と宿泊業を結び付けることによるお互いの活性化を図ったり、旅行スタイルの変化やレジャーの多様化についての勉強会を行ってはどうか。 ・地元企業が活性化することで、地域内で経済が循環する。就業者には地元に住んでもらい、安心して子育てができるようになれば、地元経済が発展し、若い世代とシニア世代が楽しく暮らすまちにつながる。 ・市外への通勤者が多く、経済波及効果に乏しいため、特に、本社・本店・事業主が市内にある企業を育て、廃業させない支援をし、持続的に発展させていく必要がある。 ・企業のDXを推進し、省力化や生産性の向上、インフラの整備、人材の育成を支援する。
	中・高校生	・グローバル化やデジタル化への対応。 ・半導体工場や家電製品の組み立て工場などが集まり労働者で賑わうまち。 ・若者の誘致を可能にするプロジェクト（このまちに合った特定の職業を探し、その職業に興味のある若者を大学などで探して体験型の企画を行うなど）。 ・都会にはない田舎の良さを残しつつ、都会との経済格差や教育格差、情報格差などを最小限にしたまち。		
農業	一般	・農業従事者の高齢化で、休耕田（畑）が目立ちます。温暖な環境を活かし、若者の就農を促進（他府県へも働きかけ）し食の充実を伊豆の国市から。 ・いずれの地域にも言えることですが、農業従事者の高齢化で農業の担い手不足が深刻な問題ですね。私も76歳になりますが、苺農家のパートから人手不足で抜けられません。市（行政）・JA・農家の三者が知恵を出し合い、早急に対処しなければならないと思います。 ・年齢を重ね農業を離れていく方が増えています。また、伊豆の国市にニューファーマーとして移住され農業を営んでいる方も増えているようです。地域活性化のため良いことだと思います。十分なる豊かな農地を活用して農業の盛んな市になっていくことを期待しています。物作り、地でできたものの感謝、農家の人々への感謝をこれからの子どもたちに学びわかってほしいです。 ・私は農家で柿の収穫をしています、まだ知られていないので、何とか宣伝してほしいと思います。 ・農業や林業の特産物を増やしていく。後継者の教育や技の伝承に力を入れる。 ・農業の盛んなまち。オーガニックで安心安全な農作物を地産地消できるまち。日本古来の食文化を継承するまち。 ・有機農業のモデル地域。 ・有機農業の面では大仁瑞泉郷との連携、情報交換、交流。 ・食料自給率、種、農薬、食品添加物など、日本の食問題を市が認識し、市民に対して情報発信する。 ・休耕田の枯草対策。 ・休耕田を利用して農業体験をしていただくシステムを導入する。休耕田の提供者には市で援助する。 ・荒れた田んぼがアパートになるのがすごい悲しいです。後継者、不足なのはわかりますが本当にどうにかならないかと思います。 ・少子、高齢化が進んで過疎化が進んだ地域に暮らしていますが、周囲に耕作放棄地が徐々に広がっています。農業での転用は限界と感じます。山林も同様で、そのまま放置する。勿体ないが個人では限界、立木等の有効活用があればと思います。 ・農業委員会の業務として水田を守るだけでなくいかがわしいところについてもきちんと委員会としても判断して欲しい。	・農業の助成をいちごやミニトマト以外にも広げる。 ・農業の高齢化。 → オーガニック給食の推進。 → 有機農業の農産物の増産。 → 農業法人・企業の誘致。 → 給食費の無償化。 → イチゴ・ミニトマト以外の農産物の支援。 ・農地利用、空き地情報を知らせ希望者が使用できるように。 ・耕作放棄地がないまち。	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 ・新規就農者の育成は、市や県、JA等が連携して行っているが、燃料や資材の高騰により非常にコストがかかるようになり、敷居が高くなってしまっている。 ・第3次総合計画に向けては、引き続き新規就農者や定年帰農者の育成・支援というところから、担い手不足や耕作放棄地問題の解消など、地域農業の振興を考えていきたい。 ・農業の後継者不足について、後継者がいない理由として、収入の少なさが挙げられる。 ・現在の個人による農業では、これからの伊豆の国市の農業をしっかりと形でアピールすることは難しい。 ・農業法人のような組織を立ち上げ、そこに若者が農家として就業できるというようなことを、行政としても考えていく必要があるのではないか。 ・ここ最近、大雨による災害が多くなっているが、山間部の農地が荒廃していることが原因の一つだと思っている。農地が荒廃したことで調整池としての役割が失われ、雨水がそのまま下流に流れてきているのではないか。 《未来の伊豆の国市について》 ・安全で安心な農畜産物を安定的に供給できる、持続可能な地域農業が確立されているまち。 ・農業の企業化促進と地域としてのブランド品の開発。そのためには、後継者が希望のもてる職場づくり、荒廃農地の再農地化、特産品としての新しい物産の開発を促進してはどうか。
	中・高校生	・農家などの第一次産業の援助や若者が目指すことができる環境づくり。 ・自然を守る取組や畑を整備する人等への支援。		

基本目標3：経済が循環し、にぎわいや交流が増え、市民一人ひとりが活躍するまち

政策分野	まちづくり市民アンケート／まちづくり中学生・高校生アンケート　*原文ママ		市民ワークショップ	第1回総合計画審議会
観光・シティプロモーション	一般	・もう少し企業などとコラボなどをし、市外、県外の人たちに魅力などが伝わるようにする。 ・ドラマ撮影などのロケーションが良い場所が多いので、それを生かしたまちにしてほしい。 ・歴史で観光客をひきつける魅力あるまち。健康・インバウンドも含めた観光文化都市、ジオパーク。伊豆の山海の素材を活用した食事を名物に。 ・伊豆の国市内温泉巡り観光が充実しているまち。 ・立派な歴史（源頼朝・北条政子、願成就院+国宝等）、世界遺産韭山反射炉、豊かな自然（狩野川・葛城山ロープウェイ・城山等）、いちご狩り園などの素晴らしい特徴を大事に育てアピールして行く。伊豆長岡温泉という素晴らしい資源もあるので市も力を入れて温泉街をもっと盛りたて素敵なお雰囲気のある温泉街に育てて欲しい。温泉街の主人や住人たちと意見交換をして行くのも良いかもしれません。 ・駅や人が集まるところに、おすすめ名所的な感じで、伊豆国市の歴史的遺産を掲載する。 ・人気アニメの『ラブライブ』やNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』などで地域活性化の影響が大きかったと思うので、もっとそういったコラボ企画やタイアップなどを積極的に行うことが良いかなと思います。あと私は伊豆長岡温泉戦国花火大会が大好きなので、その辺りにもっと力を入れてくださると嬉しいです。人気作品などの音楽を使用してのシンクロ花火を行えば、もっと注目される機会が増える可能性があるかなと思います。 ・飲める温泉や温泉まんじゅう銘菓セットなど、行政と民間で商品アイテムを算出する会話の場を作る取組をして欲しいです。 ・大仁温泉、伊豆長岡温泉、韭山温泉などのマップやお湯巡り手形などのイベント。 ・伊豆箱根鉄道、各駅の整備。駅前の飲食店や、温泉場の活性化。サイクリングロードの整備。 ・温泉街のお雰囲気を良くする。今は空き店舗等が多く、温泉街にある娯楽施設が無く、夜に浴衣を着て出歩く観光客がいない。楽しく過ごせて恥ずかしくない温泉街にする。 ・伊豆半島全体で協力し、観光資源を宣伝。観光客を誘致する。 ・伊豆長岡駅を修善寺駅のような雰囲気の駅に改装希望です。伊豆長岡温泉戦国花火大会を今以上のクオリティで毎年開催してほしいです。もっと全国の人が注目するような人気コンテンツとのコラボレーションやタイアップを期待します。 ・ほかの地方に住んでいる友人から伊豆の国市といえば「伝統ある温泉地」と言われます。自ら進んで、伊豆の国市の伝統と現在を具体的にアピールしたくなる様に、こちらに住むこと自体が良い思い出になる環境を整備されると有難いです。伊豆の国市の良い所を、広報誌などで多く発信され、その様な読み物を公共施設などに置かれると良いと考えます。 ・昔からある小規模な温泉施設の保存、運営補助。 ・先日伊豆長岡の温泉に泊まった際に、その温泉宿の向かいに廃業した旅館があるのが気になりました。その廃業した旅館の入口付近にダンボール等のゴミが乱雑に積み上がっていたからです。廃業は仕方がないとしても、観光地としてある程度清潔で整った状態を保ってほしいなと思いました。でないと他の頑張ってる営業している旅館の印象まで悪くなってしまう気がします。 ・愛犬（に限らず）と旅をする需要が増えているように思う。それに特化した観光施設もあって良いと思う（保護猫カフェ等も含む）。 ・無料Wi-Fi、電子マネー対応等、外国から来る人に対しても対応が出来る様に。アニメーション、映像は言葉でなくても理解できるので、そういうものを活用したら良いと思う。 ・先日のエロイカジャパンのイベント、市内の方でも多くの方が知らなかったみたいです。良い取組が伝わる努力もっててください。関心がある人に伝わらない。関心がない人にも伝えて。（例）個人の方：開催後に新聞で知った。市内キッチンカーの方：知っていたら出店したかった。のけ者にされている感が残ると、市への信頼感や今後の協力に影響すると思います。 ・環境や温泉資源をベースにして、海外からの観光客、さらには語学留学して日本語を学び、文化に触れる若い外国人を受け入れて、国際交流都市づくりをめざすべきです。 ・今ある自然・文化・資源・地場産品を先ず市民に発信し、市の素晴らしさに気づくことから始める。併せて他市、他県民が感じる伊豆の国市の魅力も理解する。 ・市のイメージキャラクターをもっと見る機会が欲しいです。 ・若者の誘致を可能にするプロジェクト（このまちに合った特定の職業を探し、その職業に興味のある若者を大学などで探して体験型の企画を行うなど）。 ・子育て世代の移住者受け入れに対する支援の方法を充実することで、未来を担う子供たちが増えることを望みます。 ・他県から引っ越してきたばかりで何も分からないため、そういう人に対する支援なりを充実させてほしいです。 ・伊豆の国市のホームページが見栄えが悪く（色使いも地味）目的のページを探すのに時間が掛かる。特に申請関係やインターネットによる作業は分かりにくいし、たどり着くの苦労する。	・お祭りやイベントがいっぱいあってほしい。 ・観光支援（観光資源を総合的にPR）。 ・テーマパーク（ランドマーク）がほしい。 ・市内で一日楽しめるようなスポットを増やす。 ・吊橋を住民と観光のために作る。 ・自転車道を整備しサイクル人口を増やす。 ・市内を快適に周遊できる手段があるまち。 ・サップ、カヌー遊びをもっと手軽にできるように。 ・若者に地域の歴史を認知し地域愛を深める。	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 ・団体旅行から個人旅行に大きくシフトし、その場に行って、そこにしかないものを消費するというニーズが高まっている。 ・観光と農業の連携やいろいろな形での新たな体験を副業として成長させていくことで、新たな力になっていけば良いと思う。 《未来の伊豆の国市について》 ・海（東海岸と西海岸）の幸、山の幸、川の幸が豊富にある、伊豆半島の食の宝庫としてのまちとする。 ・観光を中心とした考え方から脱却し、高齢化社会を見据え、「医療・福祉」と「癒し」をテーマにしたまちづくりを行ってはどうか。 ・近年、防災の取組が増加しているが、いきなり現状を全て転換することは難しいので、観光と医療・福祉、観光と防災のように、観光をフックに展開し、最終的に安心・安全を連想させるまちづくりが肝要と考える。 ・伊豆の国市は、歴史遺産、自然景観、温泉、農作物、首都圏との近接性等多くの魅力を有しているが、それゆえに政策の核とするポイントを絞りにくかったり、“伊豆の国市といえばこれ”というイメージを持たれにくかったりするのではないか。 ・伊豆の国市は、県や周辺市町（美しい伊豆創造センター含む）との連携が進む観光面以外に、移住や防災対策など他分野でも、今以上に協業と効率化について周辺市町に能動的に働きかけを実行し、「伊豆の中心・伊豆のハブ」として人々がシビックプライドを持っているまちになってほしい。
	中・高校生	・歴史を生かした観光で賑わっているまち。 ・インバウンド需要とかいろいろ考える。 ・県外の人、特に首都圏の人向けに旅行の広告。 ・インターネットで特産品を宣伝する。 ・情報の発信方法を工夫する（YouTubeやインスタなど、フォーマルではなくカジュアルに）。 ・移住者を募り、店を開いてもらう、助成金を出す。		

基本目標3：経済が循環し、にぎわいや交流が増え、市民一人ひとりが活躍するまち

政策分野	まちづくり市民アンケート／まちづくり中学生・高校生アンケート　*原文ママ		市民ワークショップ	第1回総合計画審議会
市民活躍	一般	・各地域活動への参加者が減少している状況から、コミュニティの重要性、必要性を市長から発信してほしい。この発信により、地域活動の重要性、必要性が認知され、地域の活性化につながっていくと思われる。 ・多世代の交流ができるようなコミュニティづくり。 ・より広いコミュニティの場を作っていく。賃貸あや集合住宅に住んでいる方々は、地域の中に入っている方が少ないように思います。そういう方々も入る仕組み作りも必要だと思います。災害が起きた時に把握出来る状況なのか疑問でもあります。 ・アパートに住んでいる方は、回覧板も回ってこない。なので町内のイベント情報もナシ。防災訓練情報もないので参加ナシ。アパートに住んでいると町内の方との関わりもないので、参加する事に抵抗があります。組費も払ってないので（組に入っていない）、組が加入している保険も対象ではないので、イベントに参加して万が一があっても各自で対応です。 ・地域活動の活発化：温故知新、夏祭りや秋祭り、地区忘年会等の開催（廃止となった地区では復活）による地域住民の交流の場の確保。 ・出来れば市民同士の交流が図れるイベントや場所があると良い。また今後はメタバース等で交流できる場所を作ることもあるのではな - いかと思う。 ・ボランティアを募ったり、ポイント制度などの取り入れ。 ・市政への参加などで、貢献度に応じたリターンを設定する。 ・若者と語ろう会（懇談会）。 ・昔、広報に時々入っていた“市長への手紙”。 ・伊豆の国市は国際人として英語を自由に話せるような自治体（市民）にして、国際交流で観光発展をはかる。 ・子ども、若年世代（20代、30代）が、自由に生きづらさを感じない地域社会、男女平等、ジェンダー平等など徹底的に進める。	・くぬぎ会館の活用。 → サークル活動、展示場、文化活動ができる場。 → 学校の教室のようなイメージで、様々な団体が各教室空間を利用できるように。 ・ワークショップや意見交換会の機会を増やす（参加者も）。 ・子どもから高齢者まで交流できるスペースがあるまち。 ・長居できるスペースがあるまち。 ・集まりやすい場所、なごむ場所、施設の設置。 ・カフェなど時間をつぶせる場所がない。 ・コミュニティ会場の使用料を少額に。 ・行政が広報誌の設置場所を伝える。 → 新しく移住してきた方に情報を提供する。 → 設置企業を増やす。 → LINE登録者数を増やす。	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 ・市民ニーズの把握という観点で、LINEやロゴフォームのアンケートが増え、以前より、自分たちの声が町に届いていると感じられるようになったので、今後もっと推進していったほしい。 ・中学生や高校生においても、自分たちの声が市に届き、自分たちの手で自分たちのまちをつくるということを体感できるような取組があれば良いと思う。 ・現在、所属している団体で外国人を対象とした日本語教室を行っているが、日本語検定を受けたいひと、日常会話をしたいひと、困ったことの相談をしたいひとなど、座席が足りないくらい多くの方が来ている。 ・日本の労働人口が減少し、外国人に頼らざるを得ない状況になっていく中、どのように外国人と付き合っていくかが課題と思う。 《未来の伊豆の国市について》 ・豊かな自然を最新の技術で守りながら、家庭・農業・観光・産業で循環し、市民でつくるまち。 ・市民の誰もが安心して暮らしていける伊豆の国市。 → そのためには、地域力を高めるための若者を巻き込む「地域の活動への参加」が重要。 ・元気な高齢者と子どもや若者との交流が活発になっているとよい。
	中・高校生	・市民が主体となるイベントを行う。市民の意見が多く反映されるようになる。 ・学生や老人と関わるイベントなどを催す。 ・地域住民が自分たちの街を知る活動。 ・若者が積極的に地域行事に参加する。 ・中高生を中心に、もっと伊豆の国市の政策や取り組んでいることについて知ってもらう機会を設けること。 ・住民の交流を増やす。 ・グローバル化やデジタル化への対応。 ・ユニバーサルデザインを取り入れる。 ・多様性のある政策を作る。		

基本目標4：ひとと自然が共生し、持続可能で豊かな暮らしができるまち

政策分野	まちづくり市民アンケート／まちづくり中学生・高校生アンケート　*原文ママ		市民ワークショップ	第1回総合計画審議会
自然・生活環境	一般	・都市と自然が共存できるまち。 ・空気がきれいな環境を守ってほしい。 ・美しい自然豊かな中で、人と人が人格、個性を尊重し合えるまち。 ・薪ストーブの使用制限や罰則を作ってほしい。住環境が最低である。 ・環境（自然）を破壊しない。太陽光パネル（メガソーラー）設置などしない（個人の家は自由）。 ・（自然）環境整備：特に河川周辺環境。 ・子どもが自然と触れ合える、思いっきり遊べる場所づくり。	・自然と共存できるまち。 ・自然や緑が多い。 → ゴミ拾いイベントにこどもも参加する。 ・自然環境が良い。 → こどもが自然で遊べる場所の整備（公園、堤防近郊）。 ・再生可能エネルギーの多様化。 ・町並みを綺麗にする。	《未来の伊豆の国市について》 ・環境が整備された美しいまち。 ・山と川等、身近に豊かな自然があるまち。 ・豊かな自然を最新の技術で守りながら、家庭・農業・観光・産業が循環し、市民でつくるまち。
	中・高校生	・SDGsの対策をする。 ・自然の豊かさが変わらず、地球温暖化に対策しているまち。持続可能性が高いまち。 ・人口減少や脱炭素といった構造的な課題に対処しつつの持続可能なまちづくり。 ・これ以上自然を壊さずに風力発電などを作る。 ・伊豆の国市の自然環境についての講演などを開く。 ・環境保護活動や、環境に関する問題をより知ってもらう取り組みを増やす。 ・道の清掃（草刈りなど）をしっかりとやる。 ・ゴミ拾いボランティアなど、環境を守るイベントを実施する。 ・自然を守るための清掃活動。 ・山、川、池などの整備をする。気軽に自然を訪れることができる。 ・野焼きがものすごく迷惑。 ・祭りが終わった後ゴミが沢山ポイ捨てされている。 ・学校が全体的に荒い（草）。 ・周りに田んぼばかりで虫がいっぱいいて、毎年蚊に刺されて困っています。 ・デザインの良いゴミ箱を感じさせないゴミ箱を置く。 ・野良猫、野良犬の保護活動を行ったり、殺処分を無しにしたり、散歩コースを作ったり。		
循環型社会	一般	・ゴミをへらしていくサイクルを見直してほしい。大手がプラスチック類を減らさないかぎり、私達が処理しても間に合わない。 ・まち全体のリサイクル、リユース、ゴミの捨て方減らし方の取り組みが増えると、節約と環境保護に貢献できそう。 ・県外から転入して、とても驚いたのは、組ごとにごみ捨て場がなく、車で捨てに行かなければならない事です。高齢になったらなおさら大変だなと感じました。ゴミ捨て難民になっている方が既にいるのかな?!と思いました。（逆に、クリーンセンターに持って行ったゴミは無料で捨てられる事も驚きました。そちらを有料にして、ゴミ捨て場を増やせたら良いのと思っています。 ・資源の分別などリサイクルの営みは他の自治体のモデルとなるものと市民として誇りを持っています。行政の皆様のご努力の賜物でございます。有機農業のメッカ、大仁瑞泉郷等との連携の中でぜひ進めていただきたいです。学校給食への導入を今後ともお願いします。 ・ごみ出しする場所が大仁三信から大仁公民館になり、遠くなり大変。 ・ゴミ減量に伴う補助金制度を復活させてほしい。 ・身近なところでは、ゴミ回収の頻度を増やしてほしい（ビン・カンが月に一度は少ない。せめて月2回を希望）。 ・洗剤やシャンプーなどの量り売りや、プラスチック包装の無い野菜を売る店があったら、もっとゴミを減らせるのになとも思っています（ゴミを減らしたいけど難しいです）。		
	中・高校生	・3Rを心がける。地産地消。 ・食品ロスを直したい。		

基本目標4：ひとと自然が共生し、持続可能で豊かな暮らしができるまち

政策分野	まちづくり市民アンケート／まちづくり中学生・高校生アンケート　*原文ママ		市民ワークショップ	第1回総合計画審議会
水環境	一般	• 自分の地域では水道の水圧が低く、小石が出る時があり、早くおいしい水にしてほしい。税金が高い。 • 公営水道料金や下水道使用料の窓口業務を、なぜ外資に委託する必要があるのか？委託業務が拡大して生活インフラである水道事業が民営化の方向に進むことがないようにして頂きたい。 • 水道水をおいしく飲みたい（カルキのにおいでおいしくない）。ボランティア活動等の後継者がなく困っています。	• 水道水が美味しい。	
	中・高校生	• 水が美味しいです。だからご飯も汁物も美味しいです。 • 伊豆の国市は、とても空気がきれいで水もきれいです。公園にある蛇口で水分を補給することができます。		
まちなみ形成	一般	• 都市計画と総合計画の整合制を取ってまちづくりを進めてください。 • 田方平野にある伊豆の国市、田畑が多く市街化調整規制が非常に多い。市街化調整とは人口増加を抑えるための施策と文献には載っていたようですが、わが市も人口減少へ向かっているのではないのでしょうか。この規制のため若い方が新居を建てられない。農地は後継者が都会へ出て行ってしまい耕作放棄地で増えてきている。この規制はそろそろ検討する必要があるのではないのでしょうか。限界集落への懸念。近隣のお宅（我が家の含む）では、子供・孫が進学・就職・結婚し都会へ移り住み戻ってこない。残った親は老いて亡くなり一人世帯に...空き家へと何か策を早急にしないと思っています。 • 高齢化していくスピードがスゴイ、小さくまとまっていくしか長続きする方法はないと思う。長岡、大仁、韮山と分かれているうちはダメだと思います。 • 人々の活動や行動のデータがビジネスにつながる企業との連携（ウェザーニュースの会員制取り組み例）。 • 人口減少、空き家、対策と老朽化施設や高齢化が進んだ町内会等の統廃合や合理化、人口、予算等の身の丈合った計画。 • 市街化区域を増やして、用途地区を設けるべき（特にタウンズからアピタに延びている道路周辺）。 • 空いている土地などに自然農業など貸出、非常時に備える食料を町作りで確保できる知恵。 • 社会状況、産業構造が転換期にある中で、地方のまちづくりは箱物づくりからソフト企画力の時代へと変わっていかないといけない。財政難の中で、既存のインフラのメンテや農業資源を維持するだけでも行政は大変だと思う。 • 大仁地区とりわけ駅前が閑散としたまま、生活が不便になりつつある。 • ショッピングモールを建てる。 • 少子化で人口減少は避けられぬようで、市の予算も先行きが心配です。公共の諸施設を維持する額も増えると思われます。これからは新規の大型施設などは控えることが肝要ではないのでしょうか。 • 花を植える。 • 自然、昔の街並み、まつりなどを残す。 • 屋外広告物について。景観条例で色の指定で苺の赤やトマトの赤を、赤の色は条例が使えないので、くすんだ赤でなければ認めてもらえないのは、おかしいと思う。伊豆の国市の名産物で、自然の色が景観に合わないという考えがわかからない。 • 歩きまわることがインセンティブになる持続性のある仕組み（横浜ウォーキングポイントなどが事例か）。 • 狩野川の緑地を利用した公園を数箇所増やしてください。 • 子どもが自然と触れ合える、思いっきり遊べる場所づくり。 • 若い人たちが安心して住める住環境の構築。安価で住みよい環境の住宅。 • 空き地、空き家を持主に連絡して（わかる範囲で）、草刈りや枝木の剪定等をするようにしていただきたい。荒れ放題で近所の方に迷惑をかけているのでは？ • 空き店舗へのリノベーション補助。	• 商店街をもっと活性化。 • 町並みをきれいに。 • 市民の森、城池公園のベンチを修復。 • 空き家利用、まちづくりについての勉強会の開催。 • 空き家をリノベーションし、住処を増やす。	《未来の伊豆の国市について》 • 限られた財源を有効利用するため、伊豆長岡駅を中心とした韮山エリアから順天堂病院エリアまでを重点エリアとして、他エリアと区分けしてまちづくりを行う発想も必要ではないか。 → 順天堂病院エリアでは、旅館の跡地を利用したサービス付き高齢者住宅等の誘致なども、温泉利用と合わせ、有効と考える。 • 長岡地域は観光中心、韮山地域は文化財・農業、大仁地域は商工業として市全体でまかなえるような施策ができればよいのではないか。 • 少子高齢化が進み、買い物難民が増えていくことが予想されることから、ゾーン分けが必要だと思う。 • 人やモノの流れの要衝（交通（交流）の要衝）を活かしたまちづくりを行う。
	中・高校生	• 立地を増やして建物増やす。 • 大型商業施設とか建てる。 • 古くなった施設（プールなど）を新しく建築する。		

基本目標4：ひとと自然が共生し、持続可能で豊かな暮らしができるまち

政策分野	まちづくり市民アンケート／まちづくり中学生・高校生アンケート　*原文ママ		市民ワークショップ	第1回総合計画審議会
交通・道路	一般	・バスの最終時間をもっと延ばしてもらいたい（せめて22時ぐらいまで）。 ・通院や買い物等へ行きやすくする為に、コミュニティバスがあると良い。 ・有料性高齢者バスでの公共交通機関の利用増加。回遊性をもつウォーキングロードの整備。 ・自転車に乗った人達が、車道を走らなくてもよいように、自転車道を広くする。 ・歩道・歩道周辺の草刈り、歩道の整備。 ・長岡駅にエレベーターができたが、階段をどうにかできないか。 ・交通についてですが、右折専用信号の設置を増やしてほしいです。例としまして、伊豆縦貫道の大仁中央ICの交差点です。神島橋の方から出る側に右折信号が無く信号が変わってから無理矢理行くしかなく危険だと思います。他にも何箇所かあります。ご検討をよろしくお願いします。 ・下田街道の交通量が減る様な対策をしてほしい（道幅が狭いわりに車の交通量が多いので交通事故が心配）。伊豆中央道が無料になると旧道の交通量が減ると思います。 ・狩野川祭りの道が狭すぎて危ないのでどうかしてください。 ・鉄道で交通系ICカードを普及してほしい。現金払いの場所が多すぎる。 ・順天堂大学病院付近の交通状況を改善してほしいです。 ・大仁中央ICの所の田京横断地下道の天井や壁が赤く汚れていて、通行する時とても怖くて不快な思いをしたので、できれば掃除などしてほしいです。 ・伊豆中央道路のトンネル内が暗すぎて、運転するたびに不安になる。夜間は特に。老人でも安心して運転できるように街全体を明るくしてほしい。 ・安全な交通、自然と近い環境で子供がのびのびと暮らせるまちがいい。 ・狩野川沿いは自転車専用道路を整理できたら安全で良いと思います。その際も車道と交差しない橋の下を通るなどできたらよいです。現在も全国から自転車乗りが来いますがもっと来てくれると思います。	・高齢者の移動手段が保障される。 ・公共交通を拡充（コミュニティバス、コミュニティタクシー）。 ・バスの利用者が少なく、公共交通が鉄道頼り。 ・伊豆箱根鉄道のIC対応。 ・交通アクセスを良くする。 ・市内を快適に周遊できる手段。 ・道路の安全帯の整備により、老人・子どもが安心して歩けるスペースを広げる。	《第2次総合計画の進捗状況に対する意見》 ・生活軸である鉄道を中心とした市街地、自然景観のなかの集落がどう連携していくか、公共交通が課題となっているのではないかと感じた。 《未来の伊豆の国市について》 ・公共交通（電車の駅やバス）が利用しやすい、移動しやすいまち。
	中・高校生	・伊豆箱根の電車が来るペースが遅すぎる。 ・伊豆箱根鉄道の運賃がとて高く不便です。 ・市が補助金を出して一律料金の市内循環バスを運行する。		